

学習過程スタンダード

(教師用)

高知県津野町越知町教育委員会

動くしかない(1)

高知SV 西留安雄

全国学力・学習状況調査から、解決しなければならない課題が判明した。学校には、学力以外の課題も山積している。課題解決はまだ道半ばであるので動くしかない。

各種答申・提言の指摘

学力の危機に伴い、①高知県学校改善支援プラン（平成 20 年 2 月） ②緊急プラン（平成 20 年 7 月） ③授業づくりのスタンダード（平成 21 年 9 月） ④高知県教育振興計画重点プラン ⑤教員の資質・指導力の向上のための人財育成の在り方検討委員会（平成 25 年 2 月）等、様々な施策が示された。

提言から

解決策の根拠を高知県学校改善支援プラン（平成 20 年 2 月）に見出せる。そこでは、「**教科の枠をこえた中学校授業力向上**」を提言している。中学校においては、授業を中心とした実践交流を推進、全ての教科で授業の基本となる学習展開（**授業のスタンダード**）を作成する等だ。

もう一つは、教員の人材育成在り方検討委員会（平成 25 年 2 月）の提言だ。「高知県では、授業づくりのスタンダード（一定水準の教育を行うために、学校全体で授業改善に取り組むための目安）が示されているもの、管理職や指導主事がこれを生かした指導を徹底できていないため、**教員は経験則に依存した自己流な授業を実施しがちとなり、学力の目標も個人によってばらつきがある。**」との記述がある。

考えられる背景

私なりに学力が伸びきれない理由を分析してみた。

まず、授業改善の取り組みである。ドリル学習や補習学習を進めると、確かに〇〇が「できる」子は育つ。学力の数値も伸びる。だが大きな数値は出ない。去年はよかったが今年は思うようにいかなかったとなる。原因は、〇〇が「できる」策を優先し、「わかる」ための授業改善が十分になされていないことが考えられる。提言の中に見る、「これまでの経験則による自己流の授業の変革」にいきつく。

次に、授業改善や学力向上の方法を十分に取得しきれていないことが考えられる。教師は、たくさんの学力向上のための理論は学んだ。その後は、一人一人に任されるが、自分自身にストーンと落ちるような施策を見つけきれていないのが現状ではないだろうか。学習指導要領総則にある問題解決的な学習の文書を読み、方法をマスターして欲しい。

解決策

一教科、一担任だけで解決を図ることができても学校全体のものとはならない。そこで教科を越えた教科横断的な学びを構築することが重要である。これまでの教科教育の研究に加えて、教科経営（教科横断的な学習）の部分充実するとよい。子供たちは学び方を学ぶことにより、意欲的に学習に取り組むことができる。

次に、問題解決学習を主とする高知型学習過程を統一し、全学級・全教科で取り組むことだ。子供たちが、「自分で考え、伝え合い、まとめ、振り返るような授業サイクル（問題解決型授業）」を確立するとよい。これまでの学習展開のサイクルでは、詳細な動きを教師も子供もとることはできないからだ。これからは、問題提示→問いをもつ→問いの共有→自力解決→集団解決→価値の共有→振り返り→習熟の様なきめ細やかなサイクルをとるようにする。全教師が、高知型学習過程スタンダードを作成し、指導に当たれば、よい結果はついてくる。

動くしかない(2)

高知SV 西留安雄

全国学力・学習状況調査から、解決しなければならない課題が判明した。学校には、学力以外の課題も山積している。関係者は改善に努めているが、課題解決はまだ道半ばだ。動くしかない。

教科横断的な学びで解決

解決策として、高知県学校改善支援プラン（平成20年2月）が参考になる。そこでは、「教科の枠をこえた中学校授業力向上」を提言している。中学校においては、授業を中心とした実践交流を推進、全ての教科で授業の基本となる学習展開（授業のスタンダード）を作成する等だ。この答申を基にすると、教科横断的な学びが考えられる。

○これまでの教科教育

国語	数学	社会	理科	音楽	美術	技家	保体	道徳	英語、総合等
----	----	----	----	----	----	----	----	----	--------



○学びの2層構造

国語	数学	社会	理科	音楽	美術	技家	保体	道徳	英語、総合等
言語活動(聞く・話す・読む・書く)・拳手方法・発表場所・ペア全体ルール・ノートの使い方・日付け等の板書・まとめ方・振り返り方法、 問題解決型学習方法 、									

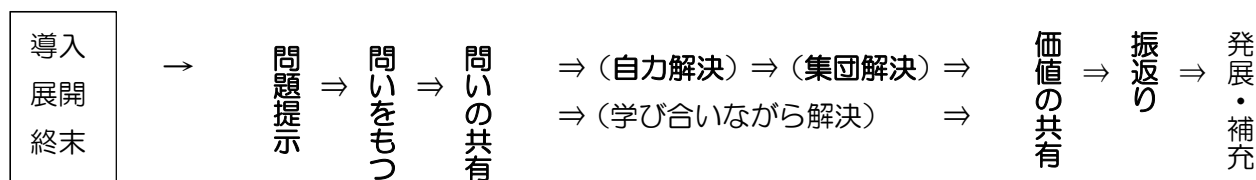
学びの二層構造の2階部分の教科教育より、1階部分の教科経営（教科横断的な学習の指導）の部分充実する。子供たちは学び方を学ぶことにより、全教科を意欲的に学ぶようになる。

問題解決型の学習過程で解決

もう一つは、問題解決型の学習過程だ。これまでの知識習得学習を中心にした自己流の授業から、問題解決学習を主とする高知型学習過程を作成することだ。それは、すなわち子供たちが主体的に問題を解決していく授業だ。「自分で考え、みんなで伝え合い、まとめ、振り返るような授業サイクル（問題解決型授業）だ。このサイクルを全教科で行うことが重要だ。なお、知識や意味理解を中心とする授業内容と併用すれば、教育効果は更に上がる。実際に一部の教師だが、かなり授業に自信をもつ教師も出てきた。

これまで

これからは



校種を超え全教師で解決

ずば抜けた授業力のある教師を育てても地域全体への教育効果は薄い。校種を超え全教師が取り組めば驚くような結果が出てくる。そのためには、①教科横断的な学び（スタンダード）を学校全体で共有する ②問題解決的な学習方法を全教師がマスターする ③小中で高知型学習過程スタンダードを作成して子供の指導に当たるとよい。ゴールが見えてくる。

動くしかない(3)

高知SV 西留安雄

思い当たることがある。学力には点数で評価できないものがあると強調し点数学力を軽視する。学力向上策の決定のプロセスが複雑で、目の前の生徒への指導のタイミングを逃す。今年度は無理だから、来年度に先送りをする。教師は、「この学校の子は書く力が弱い」「計算する力が弱い」という言い方をしやすい。こうした事がなかっただろうか。教師自身の指導力、組織としての体制が弱いことが背景となっている。

○学校の危機、学力の危機があり、どうにかしなくてはならないことを感じているだろうか。

全国を回り、多くの授業を見た。素晴らしい授業もあるが、はがゆさを感じる授業も多かった。授業改革は喫緊の課題である。

●避けたい授業(H.26.9 越知中資料)

①教師がしゃべりすぎる授業 ②知識を習得させることだけに走る授業 ③誘導的な授業
④教師が子供に話し合いをまかせきれない授業 ⑤1問1答の授業 ⑥解決活動の時間が少ない授業
⑦練り上げのない授業 ⑧ノート指導のない授業 ⑨自己流の授業

多くの教師が学校は子供中心という。だが、授業を見れば明らかに教師中心である。教科書の内容を教師が一方通行で機械的に指導しているようにしか思えない。これらが結果として受動的な子供をつくり、学力低下を招いた。

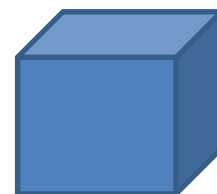
●避けたい学力向上策

①原因は学校外であるという考え ②反復学習中心型の施策 ③学力の調査で課題が見つかったも即座に対応しない ④授業改善が学力向上の本丸であることに気付かない ⑤後がないことに気付かない組織

学力の向上が図れないのは、従来型の策を続けているからだ。基礎基本が重要と考え、ドリル学習や習熟度別学習を行う。確かに「〇〇ができる子」は育つ。だが、伸びの高い数値は出ない。これらに起因しているのは、「学校風土(文化)」にある。従前の施策に固執しているからだ。また、授業改善や学力向上策が分からないのも原因である。このことに対応しない限り、現状は変わらない。

●教科学習研究方法に課題あり

多くの研究授業、校内研究を行っても授業力はつかない。これまでの教科研究に偏っているからだ。このため子供の動かし方を研究してこなかった。右の箱で言えば、箱の上の方(教科学習)に力を入れたが、肝心の土台部分である下の方(教科経営)を研究していないからだ。



◎高知型学習過程の開発

1 単位時間の授業が子供より教師の論で構成されている場合が多い。ここを解決することが重要だ。小学校では、問題解決型の授業(学習指導要領)が多く取り入れているが、中学校では少ない。このことを解決するために高知学習過程スタンダードを開発するとよい。子供が「考え、伝え合い、自分の考えをまとめ、振り返る」学習過程だ。多くの教師が積極的に取り組んでほしいと考え、スタンダードを作成した。このスタンダードを全教師が取り組むことにより、「どの教室でも同じ水準の授業ができる」。効果ある策はこれしかないのではないか。

スタンダードは、34項目があるがすべて行わなくてもよい。重要な所に視点を当て改革するしかないのだ。

第1章 分かる授業

学ぶとは何か。自分の知りたいことや考えたことを追究していく中で知識や技能を身に付け、問題を解決していくことである。自ら調べ、考え、獲得した知識や技能は確実に身に付く。

授業とはそうした学びを実現するものである。子供同士、子供と教師が一体となって学ぶ中で学びは成立する。次のどちらをとるかが問われている。

- ・教師が華麗に立ち振る舞い、話し、子供を誘導する授業をするか
- ・子供同士が学び合い、自ら考え表現しながら本質的な学びを生み出す授業をするか

古い授業観を捨てられるかどうかポイントである。

1 こんな授業は嫌だ！

- ・先生がずっと話している。
- ・考える時間、話し合う時間が少ない。
- ・発表するだけで話し合いにならない。
- ・先生が答えを言って終わる。
- ・教科書の問題をノートに解いていくだけ。

2 目指す授業

- ・問題解決型の授業
- ・子供前面型（全員参加型）の授業
- ・思考力・判断力・表現力が育つ授業
- ・子供がわくわくする授業

3 分かる授業の内容

- ・子供が主体的に問題を解決する授業
- ・気付きや発見のある授業
- ・考えることが楽しくなる授業
- ・みんなで作り上げていく授業
- ・基礎基本が定着する授業

第2章 学習指導要領の再読

1 新学力観

自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や能力を重視する学力観に立って、学習指導の改善を図ることである。子供たち一人一人が自らのよさや可能性を発揮して様々な対象に進んでかかわり、自分の課題を見付け、主体的に考えたり、判断したり、表現したりして解決するような学習活動を支援していくことが求められる。知識偏重ではなく、表現力を重視する学習(言語力)活動である。ここでいう様々な対象に関わるとは、これまでの個の学びから、仲間(ペア・班・全体)と学び合うことを意味している。

2 問題解決的な学習の法的根拠

※学習指導要領解説総則編（小中学校）

○体験的・問題解決的な学習及び自主的、自発的な学習の促進〈第1章第4の2(2)〉

各教科等の指導に当たっては、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、児童生徒の興味・関心を生かし、自主的・自発的な学習が促されるよう工夫すること。

○児童生徒の言語環境の整備と言語活動の充実〈第1章第4の2(1)〉

各教科等の指導に当たっては、児童生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童生徒の言語活動を充実すること。

第3章 問題解決的な学び（小中高みな同じ）

問題解決的な授業、学び合う授業で、子供に身に付けさせたい力は、基礎的・基本的な知識・技能、問題解決能力につながる思考力・判断力・表現力と学習意欲である。これらの他に、人と関わり合う力を育てたい。学び合いを通して、多様なものの見方や考え方、感じ方があることを知る。これによって自分の考え方や生き方を振り返ることができる。自分の学びと友達の学びがかかわり合うことにより、学びの質を高めていくことができる。

1 なぜ「問題解決的な授業」なのか

生きていくのに必要なことは、知識や技能だけではない。目の前の問題を解決するための、「問題解決能力」「知識活用能力」が必要である。学びも同様である。学力は、知識や技能だけではなく、問題解決能力、知識活用能力等の見えにくいものも確かな学力である。それらを身に付けるためには、問題解決的な授業を行う必要がある。

2 問題解決的な学び（授業）とは何か

(1) 「問題解決学習」とは

子供たちが進んで学習問題をとらえ、解決のための学習活動をしながら、これを追究し解明していく授業。

(2) 目指す問題解決学習

これまでで教科学習内容を指導することに傾注したため、ややもすると知識習得学習となった。子供が受け身的に授業に参加する、教師は一方的に話をする構図が出来上がった。分かる授業とはならなかった。そこで、子供たちに授業内での動きを学ばせることが重要と考え、問題解決型の学習方法の習得を学ばせるとよい。授業内での学び方を確立すれば、おのずと教科内容を習得することができる。

(3) 問題解決的な学習過程

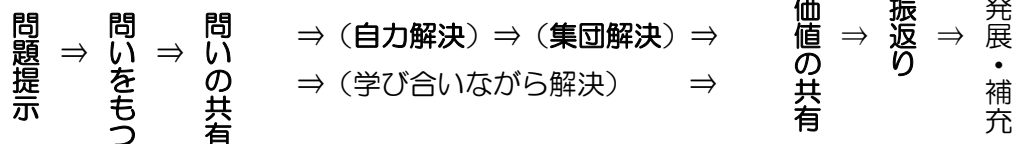
① これまでの学習過程

・導入、展開、終末の**3段階**

・問題把握⇒自力解決⇒集団解決⇒まとめの**4段階**〔つかむーしらべるー深めるーまとめる〕

*これには課題がある。細かな動きが規定されていないため動き方が分からない。

② これからの学習過程7段階（学び合い型学習）



◎問題解決的な学習を進めるための視点

- 1 思考し表現する時間の確保 ⇒ **自力解決**
- 2 事実と考えを整理し表現できるようにする指導の工夫 ⇒ シラバス・**言語わざ**
- 3 生徒同士が交流し、考えを発展させる場面の設定 ⇒ **ペア・班・集団解決**
- 4 思考過程を振り返る場面の設定 ⇒ **まとめ・振り返り**

◎学習指導要領総則上の問題解決的な学習過程の記載（第4指導計画の作成）

課題提示・・・2の(5)児童が学習課題を選択したり

問いをもつ・・・2の(4)児童が学習の見通しを立てたり～

問いの共有・・・2の(4)児童が学習の見通しを立てたり～

自力解決・・・2の(6)個別指導～

集団解決・・・2の(6)グループ指導、2の(11)ペア学習（良い点を積極的に評価し～）

まとめ・・・1の(3)そのまとめ方や重点～

振り返り・・・2の(4)学習したことを振り返ったり～

発展・補充・・・2の(6)補充的な学習や発展的な学習など～


3 問題解決学習の時間配分

1 基本 (同じ時間の比重)	2 課題に比重 (課題設定に比重)	3 解決活動に比重 (解決活動に比重)	4 振り返りに比重 (定義・定着)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 課題設定 1 課題提示 2 問いをもつ 3 問いの共有 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 解決活動 4 自力解決 5 集団解決 ・ペ・班・全 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 6 まとめ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 7 振り返り 練習問題 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 課題設定 課題提示 問いをもつ 問いの共有 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 解決活動 ・自力 ・ペ・班・全 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> まとめ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 振り返り 練習問題 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 課題設定 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 解決活動 ・自力 ・ペア・班 ・全体 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> まとめ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 振り返り 練習問題 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 課題設定 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 解決活動 ・自力 ・ペア・班 ・全体 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> まとめ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 振り返り 練習問題 </div>


・教科の特性に応じて比重をかける。「知識習の習得」は、2の課題設定である

4 高知型学習過スタンダード

もんだいかいけつがくしゅう
～問題解決学習～



か 課



自

友

まとめ

問題は何かな？

どんな問題があるかな？
～ん 変だな？おかしいな？と思ったことは？

まずは、自分で考えてみよう！

どんな学び合い言語わざを使えば解けるかな？

みんなで考えてみよう！

先生と確認しよう！

もんだいていじ
(問題提示)

と
(問いをもつ)

じりきかいけつ
(自力解決)

しゅうだんかいけつ
(集団解決)

かち きょうゆう
(価値の共有)

ふりかえり

5 問題解決学習の具体的内容

展開	□子供の活動	○教師の働きかけ
問題提示	□本時に解決すべき問題を知る	○前時までの学習内容や子供の振り返りを基に、子供たちが問いをもてるよう問題を提示をする
問いをもつ	□問題を見て、疑問や分からないところ、既習学習から解く方法を考える □問題に対して自分なりの状況を明らかにする	○子供の疑問や迷っていることを、板書等で全員に紹介をする ○問いを評価し、授業展開の方法を考える
問いの共有	□問いを集約する □友達の問いをたずねる □共通の問いをもつ □学習の方法を知る	○問題、学習方法を確認する ○子供の気づきを全体に紹介し、かかわりをもたせる ○共通問題を作成する場合もあり
自力解決	□既習事項を生かしながら、自分なりに問題解決する □友達の気づきを参考にしながら自分の考えを書く □根拠を明確にして書く。	○問題に対する予想を立てさせる。 ・自力解決ができる子供 →他の考え方を書かせる。 ・支援が必要な子供 →個別または小集団で指導を行う。
集団解決	□問題に対する自分の考えを発表する □友達の考えを聞く □友達の考えに質問し賛成・反対を述べる □友達の気づきから、考えるヒントをつかむ	○ペア学習、班学習を取り入れる。 ○話し合いを子供に任せる。 子供の話し合いで進む授業展開を！ ・相互指名の方法指導 ・教師の適切な介入（切り返しの発問） ○構造的に板書する。 ・視点を明確にした板書づくり ・子供の意見を反映させた板書づくり
価値の共有	□友達から学んだものをまとめ、自分のものにする □自分の考えを整理する	○子供にまとめせる ○まとめを共有化する
振り返り	□自分の「学び」の経過について振り返る。(内容と方法) □自分の「学び」の成果と課題について振り返る	○振り返りの視点を提示する。 ○よい振り返りを紹介し共有する

第4章 教科横断的な学び

人材育成在り方検討委員会は、授業研究の質を高めていくには、教科を中心とした内容に加え、自校の課題を踏まえた教科経営についても研究を行っていく必要があるとしている。教科横断的な学びである。

1 学びの2層構造(教科経営)

国語	数学	社会	理科	音楽	美術	技家	保体	道徳	英語、総合等
言語活動(聞く・話す・読む・書く)・拳手方法・発表場所・ペア全体ルール・ノートの使い方・日付け等の板書・まとめ方・振り返り方法、問題解決型学習方法、									

これまで教師は、初任者の時から教科教育を学ぶため教科経営を学ぶことが少なかった。そのため、子供に学び方を教えることは、後回しとなった。結果として、子供たちは、友と一緒に学ぶ、意欲的に学ぶ、たくさんの学び方を知る等の学びができなかった。そこで、学びの二層構造を提案する。まず、2階部分の教科教育より、1階部分の教科経営(教科横断的な学習の指導)を先に進めるとよい。子供たちは学び方を学ぶことにより、主体的に学ぶようになる。

2 学習過程の統一

教科横断的な学びの定着を図るために、授業の学習過程を主とする項目を統一する。すなわち、自己流の授業「ブラックボックス」に手を入れることだ。主となるのは、子供が「自分で考え、みんなで伝え合い、まとめ、振り返るような授業サイクルである。

(1) 教科横断統一事項34項目

これまで、子供たちは、教師の指導に合わせざるを得ない環境があった。今後は、教師に合わせていた子供の立場にたとう。教師間で指導方法を合わせれば子供は混乱せず授業に向かえる。それには、まず、校内で授業の統一事項を確認し、その後は小中で合せればよい。授業の共通事項をまとめると次のようになる。

○授業中の共通事項 (太字は1期、☆は2期、無印は3期)

- ☆①前時の振り返り ・振り返りノート・模造紙・掲示物・子供が発表
- ☆②日付け・縦線 ・赤鉛筆・縦に1cm線・日付とページ・全教科同じ
- ③I 課題提示 ・課題は行動目標・「~できる」・「~と言える」・「~と書くことができる」
- ☆④課題の青囲み ・課題は青で囲む・分かっていることは青の下線
- ⑤課題の3回読み ・声を出す・学習参加・課題を書いた子から読む・学習リズム
- ⑥II 問いをもつ ・1分間見る・求めることは・分かっていることは・疑問なことは
- ⑦III 問いの共有 ・問いの集約・ペア班全体で確認・大よその見通し・どんな方法か
- ☆⑧シラバス ・学習過程7・本時の流れ・単元全体の流れ・ノート書き
- ⑨自力・集団解決のヒント ・大切な言葉に線・文にならなくても書き出す・答えを出す全体
- ⑩言語わざ ・結論→根拠・理由・賛同、同類、相違・対話言語わざ・学習指導要領言語
- ☆⑪グッズ ・名札・シラバスグッズ・言語わざグッズ(㊦㊧㊨)
- ⑫IV 自力解決 ・時間の確保(10~15分)・図、式、言葉・考えたわけも書く
- ⑬マナブック ・自力解決・教科学習のヒント・ノートの使い方・文章題の必須アイテム
- ☆⑭自力解決不可 ・1対1・ヒントカード ・写す ・聞く*参加の義務
- ☆⑮机間指導赤ペン ・個人指導・ハナマル・代表の子の決定・褒めてアドバイス
- ☆⑯ペア学習 ・ほめてアドバイス・情報交換タイム・正対する・学び記録
- ☆⑰班学習 ・司会者方式 ・ワークショップ方式・ノート交換会・共通点
- ⑱V 集団解決 ・コの字向き机・中央向き机・教師を見ない・ノート展覧会

- ☆⑱練り上げ ・前の発表者の名前・他者半分自己半分・類似、相違、共通・発言リレー
- ☆⑳立場を添え拳手・「似ています」・「付足します」・「他にもあります」・「比べていいいます」
- ☆㉑話す場所 ・自席から出る・前後左右・発言リレー・多角形型発表
- ☆㉒聞き方（反応）・発表者を見る・「わかりました」・うなづく、拍手・友の意見を書く
- ☆㉓名札 ・3つ用意・子供の机か黒板に用意・黒板に掲示・名前を言い集約
- ☆㉔小黒板1 ①まずは眺める②類似・相違・共通点・明瞭・正確・簡潔③最後に本人の説明
- ☆㉕小黒板2 ①班の代表が発表②前の人の名前を言い発表類似・相違・共通点③意見を発表
- ☆㉖板書に徹底 ・発表時に板書・ひたすら板書・名札・まとめ時に板書
- ☆㉗教師の修正 ・課題に迫れない時・付足し・切り替えしの発問・ねらいとの整合
- ☆㉘Ⅵまとめ（価値の共有）・教師が書かない・まとめ赤囲み・自分の言葉で書く・リード文可
- ☆㉙まとめの発表 ・個人意見を発表・仲間の意見を書く・3人発表・教師は板書
- ☆㉚まとめのまとめ ・教師がまとめない・子供が発表・発表者を褒める・全体を誉める
- ☆㉛Ⅶ 振り返り ㉜3視点・㉝かったこと・㉞んばったこと・㉟から学んだこと*毎時行う
- ☆㉟振り返りの振り返り ・教師は不可・発表者を褒める・全体を誉める・書き癖をつける
- ☆㊱インタビュー（研究協議会）・伝え合い？・めあての達成？・成長したこと？・2名の生徒
- ☆㊲学習過程スタンダードノート ・自力解決→集団解決（自己の深化・変容）→振り返り（自己の変容）

(2) 授業の前の統一事項

- ①ノートの使い方 *日付、縦線書き、赤鉛筆で引く、1行空け、~~毎~~の意見書き
- ②問題解決段階用グッズ・シラバスグッズ・言語わざグッズ・名札等 *~~課~~、~~自~~、~~毎~~、~~毎~~
- ③学級会での決め事（ペア学習や全体学習のルール・つなげる言い方のルール）*4月決め
- ④問題解決の学習の進め方 *7段階、~~自~~の時間を多く、~~毎~~は教師抜きで話し合い
- ⑤朝の会での目標設定と帰りの会での振り返り *学びの姿勢の確認

(3) 学んだ教師

多くの教師は、これまでの授業スタイルを変える事には迷いがあるだろう。だが、教師が話さなくても授業が進む、子供が主体的に動くような授業を行う教師も出てきた。これからも伝え合う授業が定着することで、子供の学ぶ意欲も出て、結果的に学力が向上するだろう。

(4) 高知型学習過程スタンダードの開発

1 単位時間の授業が子供より教師の論で構成されている場合が多い。ここを解決することが重要だ。小学校では、問題解決型の授業（学習指導要領）が多く取り入れているが、中学校では少ない。このことを解決するために高知学習過程スタンダードを開発した。子供が「考え、伝え合い、自分の考えをまとめ、振り返る」学習過程だ。多くの教師が積極的に取り組んでほしいと考え、スタンダードを作成した。このスタンダードを全教師が取り組むことにより、「どの教室でも同じ水準の授業ができる」。効果ある策はこれしかない。

スタンダードは、34項目があるがすべて行わなくてもよい。重要な所に視点を当て改革するしかない。

高知型学習過程スタンダード 1

前時の振り返り

- **振り返りノート**
- **模造紙**
- **掲示物**
- **子供が発表**

「前時の振り返り」は、子供が振り返りノート・教師が作成した掲示物・仲間で作成した作品等から発表をする。教師が話さず、「聞く」ことを徹底したい。

「前時は、どんな学習をしましたか。」

「振り返りノートや板書資料等から発表してください。」

日付け・縦線

- ・ **赤鉛筆**
- ・ **縦に1センチの線**
- ・ **日付けとページ数**
- ・ **全教科同じ**

黒板に日付を書く。子供には、赤の縦線1センチを引かせる。家庭学習で復習をするときに役立つ。縦書きか横書きかは教科により違う。全教科、同じスタイル。

「ノートに日付を書きましょう。」

「赤のたて線を横から1センチのところに引こう。」

I 課題の提示

◎課題は行動目標

- 「～できる」
- 「～と言える」
- 「～と書くことができる」

子供たちが問いをもてるような問題を提示する。文末は、行動目標とする。評価目標で評価がしやすくするためでもある。～できる。～と書くことができる。～と言える。～を操作できる等である。

「課題を書きましょう。」

「先生は 15 分以内でしゃべります。皆さんで学びます。」

課題の青囲み

- **課題は青で囲む**
- **問題文は黒で囲む**
- **分かっていることは青の下線**
- **聞かれていることは赤の下線**

教科毎に違う課題の書き方は、教師には都合がいいが子供を混乱させる。統一された課題の青囲みであれば、書きやすい。校内研究の初期の一つである。

「課題を青で囲みましょう。」

「問題文は黒で囲むようにしましょう。分かっていることは青の下線、聞かれていることは赤の下線を引こう。」

課題の3回読み

- **声を出す**
- **課題を書いた子から**
- **学習参画の促し**
- **学習リズム**

課題の3回読みを行うのは、課題と正対するためである。発声をすると、学習へ取り組む姿勢ができる。また、思考の流れをつかむことができる。3回読みは、個人のペースで学習を進められる手段である。

「課題を書いた人から、3回読みましょう。」

II 問いをもつ

- 1 分間見る
- 求めることは
- 分かっていることは
- 疑問なこと

子供の持っている疑問点や不明点・迷っていること等を明らかにする。見通しをもたせることがねらいである。

「まず、課題を1分間、見ましょう。」

「求めることは何か、分かっていることは何か。疑問だと思ふことは何か、一人で考えてみましょう。」

III 問いの共有

- **問いの集約**
- **ペア班全体で確認**
- **大よその見通し**
- **どんな方法か**

聞かれていることは何か、どんな方法で解くのか等、解決の見通しを共有する時間である。教師が誘導的に解き方を指導しない。学力に課題のある子は、仲間からヒントを得る時間でもある。

「聞かれていることは何か、どのように解くかをペア・班・全体で話し合いをして発表しましょう。」

シラバス

- **学習過程 7**
- **本時の流れ**
- **単元全体の流れ**
- **ノート書き**

7 つの学習過程を黒板で示す。学習過程はグッズにして黒板に貼る。単元全体の流れを示す時間でもある。自力解決を「一人学び」と置き換えてもよい。

「今日の学習の流れです。ノートに書きましょう。」

「単元全体の流れと本時の位置を示します。」

自力・集団解決のヒント

- ・ **大切そうな言葉に線を引く**
- ・ **文にならなくても書き出す**
- ・ **課題の答えを出す全体会**
- ・ **たくさんの意見を出す全体会**

示した7つの学習過程の横に、ヒントとして貼り出す。その過程で何をするかを知らせるためである。自力解決や集団解決で示したい。そのヒントが解決策の大きな指針となる。

「今日の自力解決では、シラバスの横に貼りました（文にならなくても書き出す）をヒントにしてください。全体会は、（たくさんの意見を出す全体会）です。」

言語わざ

- **結論→根拠・理由**
- **賛同、同類、相違**
- **対話言語わざ**
- **学習指導要領言語**

毎時間の授業で話して欲しい言葉を黒板に提示する。

「結論を言い発表する」が主となる。対話言語や学習指導要領に提示されている言語を提示してもよい。

「言語わざは、（結論を言いその根拠や理由）です。」

「賛成、反対、同じかを言ってから根拠や理由を言う。」

グッズ

- 課自表⑤
- 名札
- シラバスグッズ
- 言語わざグッズ

どの学級でも使用して欲しい願いと授業の時間短縮等のために作成する。校内で共通に使用するので効果が大
きい。名札は3枚。挙手をさせるためである。

「ノートにもこのグッズと同じものを書いてください。」
「名札は、皆さんの机に置きます。発表をしたら先生が
とりに行き黒板に貼ります。」

IV 自力解決

- ・ **時間の確保**
(10～15分)
- ・ **図、式、言葉**
- ・ **考えたわけも書く**

自力解決の時間は、10～15分位は確保する。算数や数学は、できるだけ図・式・言葉で書かせる。考えた理由を言葉で書かせる。家庭学習でも役立つ。

「まず、自力解決です。時間は、10～15分です。」

「算数・数学では、図・式・言葉で書いてみましょう。」

「考えた理由を言葉で書きましょう。」

高知ナビのび

- **学び合いの方法**
- **教科学習のヒント**
- **ノートの使い方**
- **文章題の必須アイテム**

自ら学ぶためにも「高知ナビのび」で学ばせたい。司会の仕方や、ノートの使い方等が記されているので活用させたい。教科学習の土台を学べるアイテム」である。

「机に置き悩んだときは、ナビのびで解決してください。」

「高知ナビのびには学習の流れが書いてありますので先生を頼らず学習をしてください。」

自力解決不可

- 1対1
- ヒントカード
- 写す • 聞く

自力解決が出来ない子には、早い段階から支援をする。聞く、写す、アイデアを借りる、振り返りノート、ナビのび、ヒントカード、ペア・班活動等の手段から授業参加を促す。

「自力解決ができない人は、7つの方法を利用して課題を解決してください。」

「何も書かない、考えないということがないようにしてください。」

机間指導赤ペン

- ・ 個人指導
- ・ ハナマル
- ・ 代表の子の決定
- ・ 褒めてアドバイス

自力解決時に赤ペンで机間指導を行う。学習の理解できない子への1対1の指導を行う。花丸や励ましの言葉をノートに書く。褒めてアドバイスが基本となる。発表する子を決めておく。

「これから先生が周ります。分からない人は、手を挙げてください。」

ペア学習

- ほめてアドバイス
- 情報交換タイム
- 正対する
- 学び記録

はじめと終わりには挨拶、できれば向き合う、はじめに相手のよいところを誉める、自分で気が付かなかったところはメモをする基本を徹底する。タイマーで動くようにさせる。

「ペア学習です。ほめてアドバイスをしてください。」

「教わったことは、メモをしましょう。」

班学習

- **司会者方式**
- **ワークショップ方式**
- **ノート交換会**
- **共通点、相違点の確認**

班学習は、司会者を立てる方式がよい。班学習の進め方を指導する。子供の反応の少ない学級は、端から発表するワークショップとする。ノート交換で話をまとめる(共通点)方式もある。

「班で意見交流をします。司会記録発表を担当しよう。」

「ノート交換で共通点や違いを見つけ、指摘しましょう。」

V 全体学習

- **コの字向き机**
- **中央向き机**
- **教師対子供は不可**
- **ノート展覧会**

子供同士で展開をさせる。コの字や中央を向く方式がよい。教師に報告させる方式は絶対にとらない。教師は、板書役に徹し、子供の意見を書く。「我慢、我慢」が鉄則。

「全体で意見交流をしましょう。」

「先生は、板書役に徹します。」

練り上げ

- ・ **前の発表者の名前**
- ・ **他者半分自己半分**
- ・ **類似、相違、共通**
- ・ **発表会としない**

前の人の発言者の名前を言い発表する、その内容の半分は類似・相違・共通という視点で発表した後、自己の考えを発表する。1本の赤青色鉛筆型発表が出来るように繰り返し指導をする。

「前の人の名前を言い、意見をつないでください。」

「青赤鉛筆型で発表してください。」

立場を添え拳手

- ・「似ています」
- ・「付け足します」
- ・「他にもあります」
- ・「比べて言います」
- ・ **ハンドサイン（回数）**

立場を添え拳手をさせるのは、発言意欲と練り上げが豊かになるためである。上記のほかに、「前の〇〇とつなげて言います」「感想を言います」「もう少し詳しく言います」等がある。黙って手を挙げないのが基本である。「立場を添えて発表をしましょう。」

「みんなの意見を聞き、気が付いたことはありませんか。」

話す場所 4 か所

- **自席から出て発表**
- **前後左右**
- **発言リレー**
- **多角形型発表**

自席で発表すると教師対子供の構図となる。また、意見を言う心構えが出来ていない、全体が見えない、全員が注目しない等の課題がある。発表する姿勢が育つ。

「みんなの方を向き発表しましょう。」

「発言リレーで多角形型発表をしましょう。」

聞き方（反応）

- ・ **発表者を見る**
- ・ **「わかりました」**
- ・ **うなずく、拍手**
- ・ **友の意見を書く**

子供の「挙手と反応」は、授業参加の義務としてもよい。「反応」は、相手の尊敬と肯定、授業参加を促すために必要である。授業後は、「挙手と反応」を問う。

「仲間の発言には、反応をしましょう。」

「友だちの意見をノートにメモをしましょう。」

名札

- **3つ用意**
- **子供の机か黒板に用意**
- **板書時に使用**
- **未発表者に自覚を**

名札を用意するのは、「練り上げ」の時に他者の名前を言う、相手の意見を肯定する、発言を促すために使う。名札を子供の机に2枚ほど置き、子供が発表したら教師が取りに行く方法もある。

「板書してある友達の名前を言い、自分の意見を言いましょう。」

小黒板ボード 1

① **まずは眺める**

② **類似・相違・共通点**

明瞭・正確・簡潔

③ **最後に書いた本人の説明**

小黒板を書いた本人が発表する方法では、結論を先に言ってしまうことになる。これでは、子供同士の練り合いは出来ない。小黒板を見て感じたことをまずは発表することを優先したい。②が授業の山場となる。

「似ているところは、同じところは、違うところは、分かりやすいのは、正確なのは、簡単なのは・・・。」

小黒板ボード 2

① 班の代表が発表

② 前の人の名前を言い発表

類似・相違・共通点

③ 意見を発表

全体の練り上げが出来にくい時に班の代表者同士で練り上げを行う方式である。「私たちの班と同じ意見は」「私たちの班の考えについての意見は」と付け加えさせる。

「班の代表者の人が発表してください。」

「似ているところや違いを伝えてください。」

板書に徹底

- **集団解決時に板書**
- **ひたすら板書**
- **名札**
- **まとめ時に板書**

集団解決やまとめの時に教師が入らないことである。教師は、我慢し、ひたすら子供たちの意見交換を見守るとよい。これまでの教師主体の授業は、この時間に起きていた。指示言葉を極力減らしたい。

「板書の内容をつかって発表をしてください。」

教師の修正

- ・ 課題に迫れない時
- ・ 付足し
- ・ 切り替えしの発問
- ・ ねらいとまとめとの整合

課題解決に迫れない時や明らかに課題からずれている時に教師が修正をする。ここでも教えようとせず、最小のヒントを出すとよい。なお、少々ねらいからずれても見守るとよい。

「課題のねらいと違いますので、もう少し考えて下さい。」

VI まとめ

- ・ **教師が書かない**
- ・ **まとめは赤で囲む**
- ・ **自分の言葉で書く**
- ・ **リード文は可**

まとめは、教師は書かない。教師がまとめた文では子供の「わかった」とはならない。まとめに反応がない場合は、教師がリード文を書き、その後の後文を書かせる。赤で文を囲ませる。

「学習問題に対する答えを自分なりにまとめてください。先生は、まとめません。」

まとめの発表

- **個人意見を発表**
- **仲間の意見を書く**
- **3人発表**
- **教師は板書役**

まとめを3人位の子供に発表をさせる。聞き手は、修正を書くための時間であることを伝える。発表後は、修正の時間もとる。教師は、子供の発表を板書し、聞き手が修正しやすいよう板書を工夫する。

「まとめたことを前の人の名前を言い発表しましょう。」

まとめのまとめ

- ・ **教師がまとめない**
- ・ **子供がひとつにまとめる**
- ・ **発表者を褒める**
- ・ **全体を誉める**

自分たちの学びであることを自覚するために、まとめのまとめを発表させる。3人の発表者の内容の話をさせ、まとめさせる。発表者は、3人の発表者を誉め、学級全体の学ぶ姿勢をコメントをさせる。教師は前に出ない。

「発表した人の意見を誰かひとつにまとめてください。
仲間をほめることもお願いします。」

VII 振り返り

◎3 視点 ㊦ かったこと、㊧ がんばったこと、㊨ から学んだこと

- ・ 書き癖をつける
- ・ 毎時、必ず行う

振り返りは、3視点で書かせる。書き癖をつけるためにも必要である。B問題対処にも役立つ。書く時間がないことが予想されるが毎時、書かせる。

「振り返りを書きましょう。書き方の視点は3点です。」
「分かったこと、友だちから学んだこと、がんばったこと等です。」

「振り返りを3人の人に発表してもらいます。」

振り返りの振り返り

- ・ **教師は不可**
- ・ **発表者を褒める**
- ・ **全体を誉める**

振り返りとまとめは別なものではない。時間がない場合は、まとめと振り返りを一緒に書く。まとめ同様、振り返りを数人の子に発表をさせ、その後、ひとりの子に総括をさせる。教師は、前に出ない。

「振り返りを聞き、全体の振り返りをしてください。」

「発表する人は、クラス全体のことも発表してください。」

インタビュー

（研究協議会）

- ・ 伝え合い？
- ・ めあての達成？
- ・ 成長したこと？
- ・ 2名の生徒




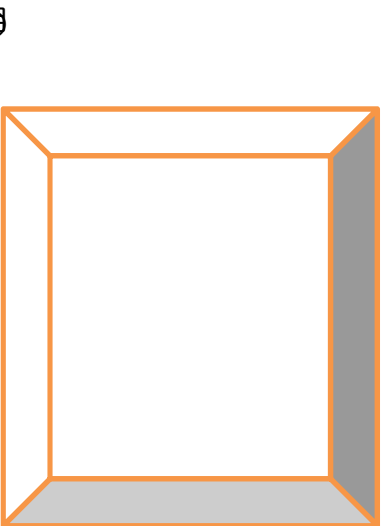

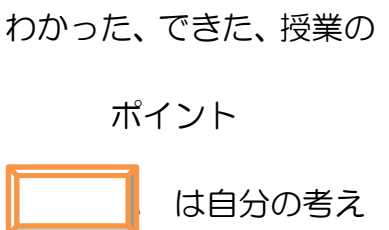

教師だけの協議会にはしない。子供が参加してこそ共同で授業を作り上げられる。授業後に評価をとり、協議会の時に参考にする方法もある。生徒が参加するのが慣例となる。

「授業の振り返りを3視点で発表してもらいます。」

高知型学習過程スタンダード 34

(高知学習過程スタンダードノート)

・学習過程とマッチ・1単位時間で収まる・事前に教師も書く

日付		集団解決	
課題		友の考え	
問い・共有		まとめ	
自力解決		練習	
		振り返り	
			*わかった、できた、授業の ポイント は自分の考え

◎脱ワークシート

ワークシートでは、授業の組み立てに力を入れることができない。授業で最も大切な、予想される子供の反応や板書計画を生かした授業ができなくなる。高知学習過程ノートは、必然的に問題解決型になっているので授業と連動させることができる。思考の過程を整理することができる。ワークシートをなくすことにより、全学級で同じ水準の授業が期待できる。

学習過程を共通にするノートで学級間の学びの差はなくなる。小中の学びの連続となり、指導の継続が可能となる。

高知型学習過程スタンダード 35

各教科等の学習過程

1 基本型

課題の提示⇒問いをもつ⇒問いの共有⇒自力解決⇒集団解決⇒価値共有⇒振り返り⇒(発展・補充)

2 国語

○日常生活に必要な対話、記録、報告、要約、説明、感想などを確実に身に付ける学習過程。

課題の提示⇒問いをもつ⇒問いの共有⇒自力解決⇒集団解決⇒価値共有⇒振り返り⇒(発展・補充)

3 算数

○数学的な物の見方や考え方を問題を解決する中で身に付けていける学習過程。

課題の提示⇒問いをもつ⇒問いの共有⇒自力解決⇒集団解決⇒価値共有⇒振り返り⇒(発展・補充)

つかむ → 見通しをもつ → 自力解決 → 学び合い → まとめる→振り返る

4 社会

○観察・調査した内容から比較や関連付け、学習を再構築していく学習過程

課題の提示⇒問いをもつ⇒問いの共有⇒自力解決⇒集団解決⇒価値共有⇒振り返り⇒(発展・補充)

つかむ → 予想 → 調べる → 深める→振り返る

5 理科

○問題を見出し、予想や仮設の基に観察、実験などを行い、結果を整理し、相互に話し合う中で結論として科学的な見方や考え方をもちようになる学習過程。(学習指導要領解説「理科編」)

課題の提示⇒問いをもつ⇒問いの共有⇒自力解決⇒集団解決⇒価値共有⇒振り返り⇒(発展・補充)

問題把握 → 予想 → 計画→実験・観察→結果→考察→結論→ 振り返る

6 生活

○見る、聞く、触れる、作る、育てる、遊ぶことで気付きが得られるような学習過程。

課題の提示⇒問いをもつ⇒問いの共有⇒自力解決⇒集団解決⇒価値共有⇒振り返り⇒(発展・補充)

出会う → やってみる → まとめる→広げる→振り返る

7 音楽

○歌いたい演奏したい等の思いをもち、主体的に進める学習過程。

課題の提示⇒問いをもつ⇒問いの共有⇒自力解決⇒集団解決⇒価値共有⇒振り返り⇒(発展・補充)
学習課題 → 取組み → 振り返る → 発表

8 図画工作

○自分の思いをもち、表現する方法や手順を考えて進める学習過程。

課題の提示⇒問いをもつ⇒問いの共有⇒自力解決⇒集団解決⇒価値共有⇒振り返り⇒(発展・補充)
課題の把握 → 方向付け → 発想構想表現→伝え合い → 振り返る

9 家庭科

○生活の様々な気付きや疑問を調べたり、考えたり、判断したりする学習過程

課題の提示⇒問いをもつ⇒問いの共有⇒自力解決⇒集団解決⇒価値共有⇒振り返り⇒(発展・補充)
課題の把握 → 考える→ 解決の見通し→ 調べる→ やってみる→ 振り返る

11 体育

○課題をもち、計画を立て、練習し、めあてを達成していく学習過程。

課題の提示⇒問いをもつ⇒問いの共有⇒自力解決⇒集団解決⇒価値共有⇒振り返り⇒(発展・補充)
新しい運動と出会い → めあて → 取り組む → 振り返る

12 総合的な学習

○課題を発見し、情報収集や取り組みを通して考えをまとめ、さらなる課題を解決して学習過程。

課題の提示⇒問いをもつ⇒問いの共有⇒自力解決⇒集団解決⇒価値共有⇒振り返り⇒(発展・補充)
課題設定 → 計画 → 情報収集→ 整理・分析→まとめ →表現→ 振り返る

13 特別活動

○集団生活の中で様々な問題を、話し合いの中で行動目標を決定し、実践を進める学習過程。

課題の提示⇒問いをもつ⇒問いの共有⇒自力解決⇒集団解決⇒価値共有⇒振り返り⇒(発展・補充)
課題 → 計画→準備 → 話し合い→準備→実践→振り返る

14 英語活動

○集団生活の中で様々な問題を、話し合いの中で行動目標を決定し、実践を進める学習過程。

課題の提示⇒問いをもつ⇒問いの共有⇒自力解決⇒集団解決⇒価値共有⇒振り返り⇒(発展・補充)
課題 → 計画→準備 → 話し合い→準備→実践→振り返る

15 道徳

○自己の内面を見つめ、課題に主体的に取り組む、自己の生き方を創り出す学習過程。

課題の提示⇒問いをもつ⇒問いの共有⇒自力解決⇒集団解決⇒価値共有⇒振り返り⇒(発展・補充)
めあての設定 → 一人学び→集団での学び → 振り返る